日本イメージ心理学会第 17 回大会
プログラム・発表論文集

JIA
2016

2016 年 11 月 26-27 日
岩手大学　復興祈念銀河ホール

ご挨拶

日本イメージ心理学会第17回大会を岩手大学でお引き受けすることになりました。盛岡では、第 9 回大会に引き続き 2 度目の開催となります。今回の大会は岩手大学キャンパス内の会場で開催いたします。学内にはイメージ世界の住人であった宮澤賢治ゆかりのスポットも点在します。東京から新幹線で2時間と少し，仙台からは40分とかからず，北海道新幹線の開通で北海道方面からの陸地移動でのアクセスもかなりよくなりました。多数の会員皆様のご参加をお待ちしております。

招待講演は，心理学における脳イメージング研究の最先端で研究を進めている北海道大学小川健二先生にお願いしました。最新の脳イメージング研究ではいったいどんな研究が可能になっているのか，お話いただきます。教育講演では，岩手県立大学のプリマ・オキ・ディッキ先生に，ヒューマン・インターフェース・デバイスの最新の技術研究について，デモを交えてお話いただく予定です。視線計測や表情検出など，心理学の研究分野で直ぐにでも利用可能と思われるデバイス技術の進展に驚かれることと思います。

シンポジウムでは，心理学の基礎的な研究分野と応用的な研究分野を結びつける新しいイメージ研究の方向について議論を深めたいと考えております。現在，心理学の様々な研究分野で，このような基礎と応用の連携の試みが進められています。さらにいま，脳科学やスポーツ科学，アートやテクノロジーの分野の研究者達が強い関心をもってイメージの研究に取り組み始めており，イメージ研究の分野は新しいフェーズに入った感があります。本大会が会員の皆様の研究にとって生産的な場になることを願っております。

日本イメージ心理学会第 17回大会準備委員会
委員長　松岡　和生

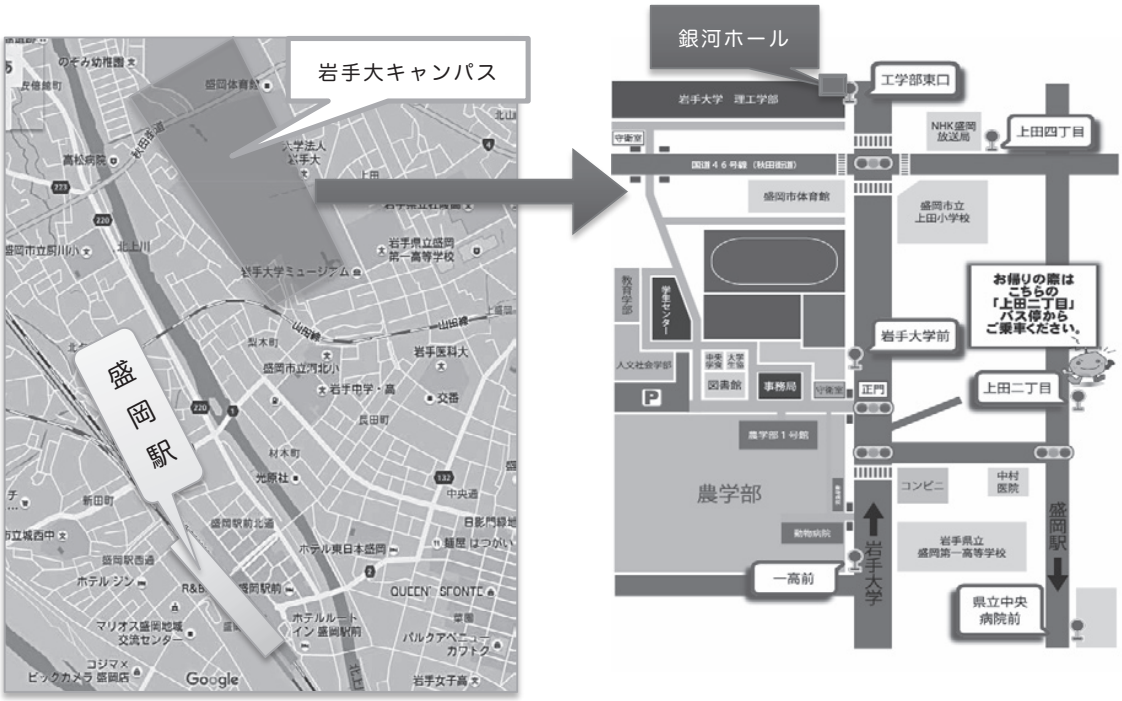
ご案内

【1】会期・会場

会期：2016 年 11 月 26 日（土）・27 日（日）

会場：岩手大学 復興祈念銀河ホール（上田キャンパス理工学部内）

〒020-8551 盛岡市上田四丁目 3 番 5 号



＜交通案内＞(盛岡駅から)

○バス利用　（盛岡駅前バスターミナル 11 番のりば）

「盛岡駅→岩手大学（銀河ホール）」

- 岩手県交通バス:駅上田線 乗車「松園バスターミナル行き」～下車「上田四丁目」
- 岩手県交通バス:駅桜台団地線 乗車 「桜台団地行き」～下車「工学部東口」

上田線は20分に 1 本程度，桜台団地線は1時間に1本程度です。

「岩手大学→盛岡駅」　※お帰りの際は、行きとは別のルートとなります。

バス停は岩手大学正門前から約徒歩3分の所にある「上田二丁目」となります。 岩手県交通バス:駅上田線 乗車 「盛岡駅行き」～下車「盛岡駅」

○タクシー利用 盛岡駅から約 2km 約 10 分(1000 円)　○徒歩 盛岡駅から約 25 分

※詳細に関しましては，岩手大学 HP「キャンパス案内・アクセス」をご参照下さい。

⇒ http://www.iwate-u.ac.jp/campusannai/

【２】大会日程（予定）

第１日目 11 月 26 日（土）		第２日目　11 月 27 日（日）	
受付	11:00－	受付	9:00－
運営委員会	11:00－12:15	研究発表Ⅲ	9:20－10:20
研究発表Ⅰ	12:30－13:30	シンポジウム	10:30－12:00
招待講演	13:40－15:00	昼　食	12:00－13:00
研究発表Ⅱ	15:10－16:30	研究発表Ⅳ	13:00－14:00
教育講演	16:40－17:50		
総会	18:00－18:30		
懇親会	19:00－		

【３】大会参加者へのご案内

１．大会参加のお申し込み

参加を予定されている方で参加費を未納の方は，お早めの振込をお願いいたします。

口座の種類：一般振替口座（ゆうちょ銀行）
口座番号：02290-9-121393
口座名称：日本イメージ心理学会第１７回大会

＜大会参加費＞

正会員	予約参加	6,000 円	当日参加	7,000 円
学生会員	予約参加	3,000 円	当日参加	4,000 円
非会員（臨時会員）	予約参加	6,000 円	当日参加	7,000 円
懇親会費（正・臨時）		5,000 円		
懇親会費（学生）		4,000 円		
論文集別途購入		3,000 円		
学生聴講		500 円		

２．受　付

大会会期中は，参加章を胸につけていただきます。参加章の該当欄に氏名・所属をご記入ください。

３．発表論文集

発表論文集は，会員および参加者全員に配布しますが，別途購入される方は，受付で販売致します。一部 3,000 円です。

４．研究発表

- 発表は口頭発表形式で行います。口頭発表の担当時間は２０分です。口頭発表時間は 15 分，質疑応答は５分です。質疑応答の時間は発表者交代の時間を含みます。
- 筆頭発表者になるのは，大会期間中１回に限ります。連名発表についてはこの限りではありません。
- 発表者は，自分の発表だけでなく，そのセッションすべてへの出席が求められます。
- 発表資料を配布する方は，早めに会場担当スタッフにお渡し下さい。資料は 40 部程度ご用意ください。
- 発表会場には，液晶プロジェクターとノートＰＣをご用意いたします。OS は Windows 8、 アプリケーションは Microsoft Power Point 2013 がインストールされています。Mac の場合，パソコン本体と付属のコネクターを持ちいただき，事前にシステム環境・画像解像度等を確認してください。
- 発表者の交代ができるだけスムーズに行われるように，予め，プレゼン用のファイルを会場のコンピュータに入れておいてください。
- 大会が準備する PC にデータを入れる方は，休憩時などに演台付近のスタッフに声をおかけください。
- ご持参のコンピュータやその他の機器(音声呈示等)の使用を希望される方は，11 月 18 日までに大会準備委員会にメール等でご相談ください。(jia17th@gmail.com)
- 事例研究の補足資料についても，論文集原稿要領の（２）の２のプライバシー保護の注意が適用されます（大会 HP 参照 http://jinsha.iwate-u.ac.jp/jia17th/)。また発表後は各自で資料を回収してください。

５．運営委員会

第一日目の 11:00 から開催されます。開催場所は銀河ホール２Ｆの会議室。

６．総会

第一日目の 18:00 から開催されます。

７．懇親会

第一日目の 19:00 より，盛岡駅北側（青森側）に直結するホテルメトロポリタン本館４階チャイニーズダイニング「JUEN」で行います。
［http://www.metro-morioka.co.jp/restaurant_list/juen/］
当日参加も可能ですので，受付にお申し出ください。皆様のご参加をお待ち申し上げております。

心理学研究のツールとしての脳イメージングの最前線

講演者　北海道大学大学院文学研究科　小川　健二
司会者　岩手大学人文社会科学部　松岡　和生

概　要

機能的核磁気共鳴画像法（fMRI）をはじめとする非侵襲の脳イメージングは、今日の心理学研究において脳内基盤を調べるポピュラーな方法となっている。初期の fMRI 研究では、主に実験条件と統制条件の脳活動の差分を取ることで活動が増加した部位を特定する方法（認知的差分法）が用いられてきた。近年は fMRI の空間解像度の良さを活かし、脳活動の空間的パターンの違いを多変量解析や機械学習によって検討するマルチボクセルパターン分析が盛んに用いられてきている。このような方法は、脳活動からの情報解読法（デコーディング）のみならず、心的表象の脳内基盤（神経表象）を検討することを可能にしている。例えば異なる条件やモダリティ間での脳活動パターンの類似性（representational similarity）や識別汎化能力の検証（cross-classification）を調べることで、脳内表現の共通性を調べることができる。本講演では、自己の運動表象や他者の行為認識について調べた講演者らの研究を紹介し、心理学研究のツールとしての脳イメージングの最前線について解説するとともに、イメージ研究に対する可能性についても議論したい。

参考文献：

・ Ogawa K., & Imai F. (2016) Hand-independent representation of tool-use pantomimes in the left anterior intraparietal cortex, *Experimental Brain Research*, in press.
・ Ogawa K. & Inui T. (2012) Reference frame of human medial intraparietal cortex in visually guided movements. *Journal of Cognitive Neuroscience*, 24(1), 171-182.
・ Ogawa K. & Inui T. (2011) Neural representation of observed actions in the parietal and premotor cortex. *NeuroImage*, 56(2), 728-735.

教育講演［第１日目　11 月 26 日（土）　16:40-17：50］

心理学研究に利用可能なヒューマン・インタフェース・デバイス研究の現在

講演者：岩手県立大学ソフトウェア情報学部　プリマ オキ ディッキ
司会者：岩手大学人文社会科学部　松岡　和生

概 要

近年，コンピュータの高速化とヒューマンセンシング技術の進歩により，カメラの映像をもとに，リアルタイムで様々な情報を自動的に抽出・分析できるようになった．さらに，カメラにおいても，高解像度化や高画質化が進んでおり，これまで以上に，詳細な情報を観察できるようになった．一方，カメラ用のレンズの画角も多様化してきており，全方位や全天球のレンズを用いると，一台のカメラでその周囲を詳細に観察できるようになった．これらのようなカメラからの情報を分析するソフトウェアは，オープンソースとして無償で利用できるものが多く，心理学研究においても多方面で活用することが可能である．

本講演では，まず一台の全方位および全天球カメラを利用した会話者の行動分析について解説し，それぞれの会話者の発話や頷き，顔向け，視線方向を推定する実験結果を紹介する．これまで，視線を分析するために，専用の視線追尾装置（Eye Tracker）が必要になっていたが，通常のカメラからの映像でも視線方向を推定できることについて論じる．次に，開発した高速撮影(240ー300fps)可能なカメラを内蔵した VR（バーチャルリアリティ）ヘッドマウントディスプレイ(HMD)について，約 100°の視野で視線方向を推定しながら，マイクロサッカードを詳細に検知できる次世代の Eye Tracker を紹介する．最後に，VR HMD の 3D コンテンツを制作した事例を紹介し，VR 内での心理学実験などへの発展の可能性について論じる．

シンポジウム［第２日目　11 月 27 日（日）　10:30—12:00］

基礎と臨床をつなぐイメージ研究

司会者・企画者・話題提供者	岩手県スクールカウンセラー・岩手大学	川原　正広
企画者	岩手大学人文社会科学部	松岡　和生
話題提供者	茨城大学人文学部	本山　宏希
話題提供者	東洋大学社会学部	松田　英子
指定討論者	静岡大学人文社会科学部	田辺　肇

＜企画趣旨＞

近年，心理学の様々な研究分野で基礎研究と応用・実践研究の連携が進んでいる。イメージの研究領域においても，認知心理学や認知神経科学の基礎研究で，イメージの生成メカニズムやその機能に関する知見が蓄積されその理論化が進む一方，心理臨床領域では，感情や認知の変容に対してイメージが持つ機能が注目されるようになり，基礎研究の手法に基づいたイメージの臨床応用研究が盛んに行われるようになっている。本シンポジウムでは、感情を伴うイメージ制御の脳内基盤に関わる基礎研究（本山宏希氏），イメージを用いた感情制御をベースにした認知行動療法の効果研究（川原正広氏），悪夢の認知行動療法の治療効果とその基盤をなす夢イメージと眼球運動の研究（松田英子氏）の３つの話題提供をいただき，イメージの基礎的な研究分野と応用的な研究分野を結びつける新しいイメージ研究の方向について議論を深めたいと考えている。

【話題提供要旨】

1．イメージ生成を抑制する機能および促進する機能の実在性について
—コントロールできないイメージの生成過程解明に向けて—

本山　宏希（茨城大学人文学部）

話題提供者は，視覚イメージの生成を抑制する機能の実在性について検討しており，左後帯状回がその機能を担う有力な候補であることを示唆してきた。また近年では，イメージ生成中に視知覚情報処理を抑制する機能の実在性を検証している。これはイメージ生成中にそれと競合する視知覚情報処理を抑え，イメージ生成を促進する機能と考えられる。本シンポジウムでは，両機能の実在性について検証した実験結果を報告する。さらに，両者を包含したイメージ生成モデルが， PTSD におけるフラッシュバックなどといった自身ではコントロールできないイメージの出現メカニズムの解明につながるかなどについても議論していきたい。

2．心的イメージを用いた認知療法的介入法に関する研究動向

川原　正広（岩手県スクールカウンセラー・岩手大学）

最近、認知療法の研究領域では、心的イメージと感情の関連について実証研究から得られた理論を精神疾患の理論的解釈や心理療法の介入手続きに応用しようとする試みが行われるようになってきている。この動きの中心にいる人物が Cambridge 大学の Emily, A. Holmes 氏である。Holmes 氏は心的イメージと感情の関係に着目して心的イメージが気分障害や不安障害のような精神疾患に与える影響について理論化を行うとともに、これらの疾患の症状を改善する認知療法の手法としてポジティブイメージを用いた介入技法に関する研究を行なってきた。本シンポジウムでは、これまで Holmes 氏が行ってきたイメージ介入法に関する研究の紹介と，話題提供者が Holmes 氏の許可を頂き作成したポジティブシナリオを用いたイメージ訓練法の介入効果を検証した研究について報告する。

3．夢イメージと急速眼球運動

松田　英子（東洋大学社会学部）

話題提供者は、「夢想起の個人差」の研究テーマについて、パーソナリティやストレスから検証することからスタートしたが、夢想起への睡眠の影響を知る必要を感じ、特に急速眼球運動に着目した睡眠実験を行っていた。その後、睡眠障害の悪夢について認知行動療法の効果を、主観的な夢の評価に関する心理指標のみならず、急速眼球運動等の指標を用いて傍証した。アメリカ睡眠医学会の悪夢治療のガイドライン（2010 年）では非薬理学的治療法として認知行動療法が推奨されているが、その 1 つに EMDR（眼球運動による脱感作と再処理法）がある。EMDR を悪夢に適用するとどのようにイメージが変容し、症状が消失するかについて症例報告を交えながら話題提供を行う。

【一般研究発表プログラム】

第１日目　11月26日（土）

＜研究発表Ⅰ＞　１２：３０−１３：３０

座長　　名畑　理津子

① 構音抑制が母音の聴覚的イメージに与える影響

文教大学大学院人間科学研究科　　○福田 景
文教大学人間科学部　　岡田 斉

② fNIRS を用いた数字列イメージ投射課題における後頭葉視覚野の脳血流動態の検討
― eidetic imager と non-eidetic imager の比較 ―

岩手大学大学院人文社会科学研究科　　○森川 未歩子
岩手大学人文社会科学部　　松岡 和生
岩手大学人文社会科学部　　山口　浩

③ 直観像素質者の脳構造に関する検討

北海道大学大学院文学研究科　　○名畑 理津子
北海道大学大学院文学研究科　　小川 健二

＜研究発表Ⅱ＞　１５：１０−１６：３０

座長　　森本　琢

① イメージ鮮明度と統御に感情が及ぼす影響 ― ＭＲＴ，ＶＶＩＱを用いて ―

北海道教育大学教育学部旭川校　　宮崎　拓弥

② 空間操作への関与度が異なる３つの視覚的イメージ容量課題の提案

北海道大学大学院文学研究科　　森本 琢

③ 自閉スペクトラム症者における状況理解のイメージ
― 健常者から得られた回答との比較 ―

東京西徳洲会病院小児医療センター　　○鈴木　裕子
文教大学人間科学部　　鈴木　賢男

④ イメージ能力の不利な/一部有利な起源としての自閉症スペクトラム

山形大学　　畠山　孝男

第2日目　11月27日（日）

＜研究発表Ⅲ＞９：２０−１０：２０

座長　　百瀬　容美子

① 卓球におけるメンタルプラクティスの効果の実験的検討
　—サーブとレシーブの課題を用いて—

文教大学大学院人間科学研究科　○平倉　瑞恵
文教大学人間科学部　岡田　斉

② 有能なサッカー選手における運動イメージ生成構造の解明（1）
　—先天全盲アスリートの場合—

常葉大学教育学部　○百瀬　容美子
常葉大学教育学部　伊藤　宏

③ 有能なサッカー選手における運動イメージ生成構造の解明（2）
　—プロサッカー選手の場合—

防衛大学校　○小圷　昭仁
常葉大学教育学部　百瀬　容美子
常葉大学教育学部　伊藤　宏

＜研究発表Ⅳ＞１３：００〜１４：００

座長　岡田　斉

① 解離体験と心的外傷後ストレス症状との関連について

岩手大学大学院人文社会科学研究科　○山口　朋花
岩手大学人文社会科学部　織田　信男

② 悪夢の頻度・苦痛度の予測因としての外傷的養育環境・解離性・空想傾向・否定的情動性

静岡大学人文社会科学部　○田辺　肇
愛知みずほ大学人間科学部　後藤　和史
岩手大学人文社会科学部　松岡　和生
文教大学人間科学部　岡田　斉
東洋大学社会学部　松田　英子

③ 夫婦関係と年代が悪夢の頻度と苦痛度に与える影響

文教大学人間科学部　○岡田　斉
東洋大学社会学部　松田　英子